

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣南高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和6年6月17日(月) 13:25~15:35
- 3 開催場所 大垣南高等学校会議室
開催にあたり、委員による校内視察を実施した
- 4 参加者
会長 竹内 治彦 元岐阜協立大学学長
委員 五十川智宣 大垣ケーブルテレビ代表取締役社長、同窓会副会長
小山亜希子 (社福) 楽山・杜の会理事
酒井 吾郎 洲本連合自治会長(欠席)
竹中 拓也 太平洋工業株式会社人事部主査
藤田万喜子 岐阜聖徳学園大学教育学部名誉教授
藤吉 和彦 サンビレッジ国際医療福祉専門学校長
二村 勝 大垣南高等学校育友会長
三輪 賢司 岐阜県公民館連合会会長
武藤 幸夫 元高等学校教員
オブザーバー 伊藤 秀光 岐阜県議会議員(欠席)
学校側 川瀬 英樹 校長
滝 一男 教頭
古山 晴美 事務長
今枝 誠 教務課長
西脇 一徳 生徒指導課長
折山 真生 進路指導課長

5 会議の概要

(1) 学校の運営方針及び現状について

- 意見1：進路の実績を見ると、生徒や教員の努力を感じる。最後までやりきることは、将来仕事に就いてからも大切なことである。これからも努力を続けることを願う。
- 意見2：進路希望実現も一つの目標だが、それ以外でもいろいろな経験ができ、生徒が目標を立て、それを達成する喜びを味わえるとよい。
- 意見3：1年のときにしっかりと基礎学力を付けることができると、その後の活躍の原動力となる。
- 意見4：世間の高校では6~7割の生徒が年内で入試が終わっている状況である。本校の生徒には年明けの最後まで頑張ってもらいたい。本校の生徒はロードマップを示すと対応できる。教員には、生徒の心に訴えかけ、行動のきっかけを起こせる声掛けを望む。
- 意見5：スクールポリシーにおける「自己効力感」を伸ばすことは重要である。文武芸の三道を達成することに賛同する。芸は大人になってから大切である。
- 意見6：本校の生徒は将来、この地域に帰ってきて地域に貢献する人が多い。その点での本校の役割は大きい。本校で在学中に職場体験やボランティアを通して地域を知る活動をし、報告や発表をする場を設けることは重要である。それによって自己達成感も得られる。
- 意見7：ある高校が今年度入試で多くの受検者を集めたが、中学生への説明会で在校生に説明させたことが功を奏したと聞いた。本校でもそのような取り組みをしてもよいのではないか。最近の生徒は、上の立場の者からの話よりは、横の立場からの人の話の方が心に入る。

(2) スクールミッションについて

- 意見1：学校は何でもできるわけではない。学校が教えるものの範囲を決めていった方がよい。本校は基礎学力を育む使命を担う学校である。
- 意見2：進路が多様化しており、高校生自身が将来の夢を持ちづらい状況だが、本校で学んだら「こうなりたい」という夢が見つかる学校になっていけるとよい。
- 意見3：本校の卒業生には西濃地域の会社や役場、病院等の施設、町内等の団体のリーダーが多い。本校が地域に果たしている役割は大きい。
- 意見4：他校と比べて本校の生徒と接して感じるのには良識を持っていることである。本校が育てるべきは「良識ある人」である。

意見5：本校の卒業生を見ていると「南高愛」の強い人が多い。卒業後も本校に誇りを持ち、母校愛を強く持つ学校であり続けるとよい。

(3) 校則について

意見1：校則は本当に必要なのか。靴の色、靴下の色、髪の色等は決められていなくてもよいのではないか。外見にこだわる理由はあるのか。本校に限ったことではないが、もう少し自由でもよいではないか。

⇒校則は本校の状況に合った形で継承されてきたものなので、地域が本校に対してどのような期待を抱いているのかを考慮しつつ、生徒の要望を受けたり、校則の改正への生徒の動きを引き出して、必要に応じて変えていく。

意見2：自分が通っていた高校は、髪の色に制約はなかったもので、初めは多彩であったが、次第に落ちついていった。

意見3：校則違反に関しては、かつては教員が半分目をつぶっていた。そのような遊びの部分があると多様な生徒にとって生活しづらさが減少すると思われる。

意見4：本校の周辺の地域には、本校の制服や本校の生徒に対して落ち着いたというイメージがある。それを踏まえて、生徒から服装の規定を変えたいという要望が出れば、検討していけばよい。

6 会議のまとめ

- ・今年度の本校の学校経営計画を踏まえた学校の運営方針について概ね了承されたが、各委員から提示された意見を参考にして、スクールミッションも含めて、今後の本校の在り方を模索する。